

意見交流



岐阜市立長良西小学校 山田さん



Q：長良西小学校でもいろいろなふるさと学習が行われているようですね。山田さんも、ふるさとについて英語でスピーチをしたと聞いていますが、中学生の英語のスピーチを聞いて、どんな感想をもちましたか？

A：すごく高山市を大切にしているんだってことが伝わってきました。

Q：山田さんは、どんなことをスピーチしたのですか？

A：長良川の魅力やゴミの問題について話しました。

Q：ここで、その時のスピーチをしてもらってもいいですか？

A：はい。（スピーチ）

A : The Nagara River has ayu and beautiful waters. The Nagara River has chosen as one of the selected one hundred exquisite waters of Japan. The water gives ayu its smell and good taste. I will take part in cleaning activity of the Nagara River positively and help keep the Nagara River beautiful.

Q : ありがとう。

岐阜市立早田小学校 具谷さん



Q：早田小学校の貝谷さんにもお話を聞いてみましょう。貝谷さんも修学旅行の時に、外国の方に話をしたと聞いたのですが、どんなことをお話したんですか？

A：岐阜城と長良川の花火の紹介をしました。

Q：その時に使ったボードも持ってきてくださいましたね。少しやってみてもらってよいですか？

A：はい。This is Nagara River fireworks. It's very shiny and beautiful. This is Gifu Castle. It's quiet and beautiful. Please visit Gifu.

Q：ありがとう。外国の方は、貝谷さんの話を聞いてどんな感じでしたか？

A：発音がいいねって言ってもらえたし、岐阜の魅力が分かってもらえたと思います。岐阜に行ってみたいと言ってくれる人もいました。

Q：よかったですね。たくさんの方が岐阜に来てくれるといいですね。

下呂市立竹原中学校 松田さん



Q：今日は、小学校、中学校、高等学校とたくさん
の実践発表を聞きましたが、まずは、感想を教え
てください。

A：自分たちのふるさとをアピールで
きて、他の地域のよいところも聞いて、自分のふ
るさとが自分の住んでいる地域だけではなく、岐
阜県全体だっていうことが分かり、この岐阜県と
いうふるさとを大事にしていこうと、より強く思
いました。

Q：頼もしい発言ですね。発表の中で、最初は「地域に打って出る」という思いだったのが、「地域に貢献したい」という思いに変わってきたと言っていました。今、地域に対してこんなことをしたいと思っていることはありますか？

A：あいさつなど色々な活動をしてきましたが、ゴミをなくして、よりきれいなふるさとにしたいと思っています。登下校中のゴミ拾いなどの活動はしていますが、もっと大々的にゴミを拾って、地域がきれいになるような活動をこれからもしていきたいと思っています。

揖斐川町立坂内中学校 高橋さん



Q：まずは、今日の感想を聞かせてください。

A：3年生の最後に、こんな大きな場で太鼓演奏をすることができて非常に光栄です。また、様々な地域の学校のふるさとを愛する心を見ることができてよかったですと思います。自分たちも、これからふるさとのために貢献していかなければいけないなと思いました。

Q：坂内中学校も、竹原中学校のように、地域の方と話すような機会がありますか？

A：地域の方と話す機会というのは、基本的には普段の生活の中になります。僕たちにとって地域の方は身近な存在で、地域行事等の中で話をしています。

Q：地域に貢献したいと話してくれましたが、どのように貢献したいと思っていますか？

A：僕の住んでいる地域は非常に山奥で、これから先、どうしても高校進学の関係で離れてしまいます。今までやってきた行事に参加するという貢献はなかなかできなくなると思いますが、それでも参加し続けたいとは思っています。

また、僕の将来の夢と地域への貢献をつなげて考えてみました。僕の将来の夢は、道路をつくる、橋を架ける、トンネルを掘るといった、地図に残る仕事をする事です。ですので、坂内により便利な交通をひけたらと考えていて、住みよい町にするといった方向から貢献したいと思っています。自然破壊のことも考えながら道路をひかなければいけないと思っていますが、このように将来も、坂内に貢献したいと考えています。

岐阜県立益田清風高等学校

半野田さん



Q：まずは、ふるさと教育フェスタの感想をお願いします。

A：このような貴重な発表の場をくださり、ありがとうございました。僕は、二人の中学生の感想を聞いて、若干、思っていたよりしっかりとしたことを言っていると思い、ハードルがちょっと上がっています。小中学生の発表をたくさん見せていただいて、自分が小中学生の時、こんなにしっかりとしたことをやっていたか、考えていたかと振り返ってみて、やっていなかったんじゃないかと思いました。高校生という立場で考えてみると、岐阜県も少子高齢化が進んでいて、人口も減ったりとたいへんな時ですが、小中学生が、自分の意見をもってふるさとに愛をもって、どんなことをしていきたいって具体的に考えてくださっているというのが、県民としても、子どもたちに活力があるというのは嬉しいことなのではないかなと思います。僕も、まだまだ高校生で未熟な考えですが、とても頼もしいと感じました。

Q：竹原中学校の皆さんは、同じ地元の益田清風高校の発表を聞いて、どんな感想をもちましたか？

A：僕も、高校は益田清風高校へ進学しようと思っているのですが、高校では、御嶽山の噴火から、自分たちの地域の観光客のことまでも考えていて、僕たちよりもさらにもっと深く、地域を拡大して下呂市一帯の中で、観光という地域の産業の面でも考えているところが、すごいなと思いました。僕も、高校に入学したら、こうした活動に取り組み貢献してみようと思います。

Q：このように校種を超えたひろがりがあるといいですね。

岐阜県立岐阜商業高等学校 小林さん



Q：本日、県産品を販売してくれた県岐商のみなさんにも聞いてみたいと思います。今日、どんな商品が一番売れましたか？

A：私たちが開発から関わらせていただいた「県岐商せんべい」をお土産として買っていかれる方が多かったです。大垣養老高校さんから仕入れているクッキーもお買い求めいただきました。購入していただいた皆さん、ありがとうございます。

Q：県産品を販売する時に、どんなやりがいを感じますか？

A：去年まではOB、OGの方から仕入れたものばかりを売っていましたが、今年から農業高校などの商品を仕入れさせていただいています。自分は商業高校なので商品を作ったりすることはできないため、県内にもすごい高校がたくさんあるんだということを知って勉強になったり、ちょっと悔しい思いもしたりしています。また、県内の高校の作っている商品が、ほとんど岐阜県産のものを使ってあり、岐阜県にはこんなにすてきなものがたくさんあるんだなと勉強させていただいています。県岐商でも商品を取り扱う会社を設立したので、そういうことも知らせていきたいと思っています。この後も販売をするので、よかったら見ていってください。

司会を務めてくれた加納高校の鈴木さんと小山さん



Q：司会者の鈴木さん、今日の発表、今の交流会での意見を聞いて、どんなことを感じましたか？

A：僕は、この9月に誕生日を迎え18歳になり、有権者となります。ふるさと学習を通して地域社会のことを考え地域づくりに貢献したいという思いがとて強くなりました。ですので、ふるさと岐阜をよりよくしてくれる代表者の方に一票を投じたいと思います。

Q：鈴木さん自身も主権者になるということで、これからも岐阜県のことをよろしくお願いします。

長良地区にお住まいの 清水さん



Q：長良西小学校が天神川の学習でたいへんお世話になっている清水さんが、会場に来てくださっています。どのような気持ちで長良西小学校の子どもたちに関わっていただいているのか教えてください。

A：今日は午後からずっと素晴らしい発表を聞かせていただいて、昨日の夜からふるさと教育に期待することなどについて、いろいろと考えておりましたが、何も申すことはございませんという思いです。ここにいらっしゃる大人の方も、そういう思いをたくさんもっていらっしゃるのではないかと思います。発表の中で、様々なキーワードを逆にいただきました。「地域に打って出る」とか「地域に貢献する」「主権者として」「地域の主人公として未来をつくっていく」など、これこそまさに、ふるさと教育の目標なのではないか、ふるさと教育に期待することなのではないかと思いました。私は、久しぶりに感動で震えております。

A：家で内職をしながらテレビをつけていると、子どもの虐待だとか年寄りを投げ落としたとか、様々な争いがあったりだとか、夢や希望もなくなってしまうように思うのですが、本当に子どもたちと一緒に活動していくと、未来への希望を奮い立たせてくれるようなものがあります。私が地域の小中学生と一緒に活動する時に、一番お伝えしたいことは、心を伝えたいと思っています。私の居場所であるふるさと長良で、どんな思いをもってこの活動を行っているのか、どんな願いを未来に引き継いでいきたいのかという、ただただその実践をお話するだけです。活動する中で、逆に子どもたちからたくさんの発見をもらっています。私は育てる立場なのかもしれませんが、逆に子どもたちから育ててもらっていると思います。地域の大人たちも、同じ主体として子どもたちと一緒に育てていきたいと、今は思っています。

A：これからふるさと教育に期待することとしては、もっと多くの方、若いお母さん方、お父さん方に、今日のこの素晴らしい実践をぜひ聞いてもらいたい。また、議会のもっとたくさんの議員の方に聞いてもらいたい。そして、未来を一緒につくっていく仲間になっていきたいなと思います。そういう思いで、これからもどんどん学校に関わらせていただきたいと思います。

県議会議員 水野議員（教育警察委員会委員長）



Q：岐阜県教育警察委員会委員長の水野様、先程司会の鈴木さんが主権者になることへの決意を話してくれましたが、一言お願いします。

A：私は、今58歳ですが、小学校、中学校、高校の頃は、これほど真剣に自分たちの住む地域のことを思って、様々なことを勉強したかどうか、そうじゃなかったような気がします。やはり、何となく、その部分にまっすぐに目を向けることが、その時代に合わないことのような気がして、そういったものを少し斜めに見ていたように思います。勉強して、世界に羽ばたこうとか言って、地域を振り返らなかった気がするのですが、今は違うんだなということを感じました。

A：グローバル人材、世界に通じる人になるためには、やはり、自分の生まれ育ったところが、どんな歴史的背景があるのか、世界の人たちに自分の生まれたところはどういう地域だとかということをきちんと話ができることは、とても大切なことだと思います。英語でスピーチできると、地域のことをもっともっと深く勉強するということはとても大切なことだと思うので、この取組はとても素晴らしいと思います。

ただただ会話するだけなら、スマホで変換ソフトがあってできますが、そうではなくて、自分の言葉で話ができるというのは、とてもいいことだと感じました。

主権者教育は18歳からという時の流れなのですが、政治に関心をもって自らの意思表示を選挙を通じて、一人でも多くの方がしてくれればありがたいなと思います。今日は、本当にありがとうございました。

会場の全員で「ふるさと」を合唱

